

おはよう

2007年6月7日
医労連・高陵病院労働組合

高知県医労連

検索



北川院長と和やかに懇談 地域にとって新・高陵病院は 欠かせない病院

6月6日、午後5時30分から約1時間、病院2階の会議室で北川院長と病院の将来方向や医療情勢について懇談しました。組合側は代表委員と県医労連から田口書記長が参加しました。

今回の懇談は、厳しい医療情勢だからこそ労使が認識を一致させ協力していくことが必要だということで組合側が提案し、北川院長にこころよく了承していただいたものです。

まず、北川院長は高陵病院の病棟ごとの入院基本料の届出状況を説明(別表)。

「厚労省の誘導策には安易に乗らない。点数が良いからと取得したら、すぐにハシゴをはずされる。じっくりと動きを見極めるというのが基本姿勢である」と断った上で、1病棟は「新型老健」(現在の老健施設に



病棟名	病床数	入院基本料
1病棟	58	介護療養
2病棟	26	7:1
3病棟	46	医療療養
4病棟	58	医療療養

看護師の配置を増やし24時間看護などを行う施設として厚労省などが現在検討中)への転換が考えられるのではないかと述べました。

2、3、4病棟は現在のままの方向。3、4病棟は、医療区分2、3の患者さんが7割。来年4月の診療報酬の改定で点数がどう動くか見極めたいと述べました。

「患者さんの医療を守る」と院長

また、北川院長は、「須崎に100床のグループホームがあるが、月7万円の負担の方は入所待ち、ところが月13万円の方は空きがある。老齢年金が月4万円、5万円の方はザラ。政府は、施設への転換をすすめているが、利用者の負担は重くなる。それを負担できる方は須崎にはそういない。その点やはり、病院は費用負担が比較的少なく安心。」「療養病床がなくなれば、行き場のない方が出る。新・高陵病院はそういう患者さんの医療を担ってきた。地域の医療や患者さんの医療を守るため、この病院をなくすわけには行かない。」と決意を語りました。

06年度黒字。資金繰りは大変だが

「06年度も何とか黒字を出した。しかし、借入金の返済で資金繰りは大変」

「久礼の土地は、病院の建替え用に確保した(病床を運営しながら建替えができるように)。しかし、法務局の跡地を取得できたので活用法については考える必要がある。資産を遊ばせておく余裕はない。また、介護施設建設なども考えていたが、須崎市と中土佐町との合併がなくなったのでそれも難しくなった。」

人材確保は大きな課題 処遇引下げと離職の悪循環は避ける

「募集しても看護師、ワーカーともなかなか応募がない。人材の確保は、病院にとって大きな課題」「経営が苦しいから処遇を引き下げるということでは、離職が加速し経営を更に悪くする。そのような悪循環にはしてはならないと考えている」

また、「人が少なく仕事がきつい」という組合員の声には、「分かっています」と理解を示し、「皆さんも知り合いを紹介してください」と協力を呼びかけました。

院長 全員集会での説明も約束 職員の理解を求める

今回の懇談は、初回であり代表委員で行いました。次回は、全員集会を開催し、北川院長に病院の現状や将来方向について話してほしいと求めました。「ざっくばらんに職員の皆さんと話したい。考えも伝えたい」と快諾していただきました。

決まり次第、お知らせしますのでよろしく願います。組合員以外の方も参加ください。